

# From Library

2024. 1. 31 発行

茨城県立日立北高等学校 図書委員会  
3年6組 伊藤良、箕輪信太郎

今回は美術の伊藤芳昌先生におすすめの本を紹介していただきました。

映画にもなった有名な作品です！

## 「たそがれ清兵衛」 藤沢 周平

～伊藤先生おすすめの本～



私が本校に越任し2年目となりました。それまで36年間、特別支援学校で勤務していた私にとって初めての高校勤務は衝撃でした。まず遠足の時の完全な自由行動、それでも約束の時間には全員が集まる。「なんてすごい人たちなんだ！」と、びっくりしました。朝ドリル、廊下での学習、職員室で先生を捕まえては授業の質問攻撃！部活動での積極的な姿勢！どれもこれも私の想像する高校生の一歩上を行っていました。本校の生徒は自信をもって進んでいけばいいと思います。何の心配もいりません。すばらしい素養をもったみなさんです。プライドをもって様々なことにどんどんチャレンジしてってください！

さて、私のおすすめの本は「たそがれ清兵衛」です。この作品に出会ったのは映画が先ですが、映画も本も大変感銘を受けたのでご紹介します。

映画は2002年に公開され、「男はつらいよ」「幸せの黄色いハンカチ」の山田洋次が監督・脚本を務め、日本アカデミー賞14部門で最優秀賞を獲得、本場米国のアカデミー賞でも外国語映画賞にノミネートされるなど国内外で高い評価を受けました。何ととってもストーリーの面白さと、画面の美しさ、クライマックスの決闘シーンの迫力がすごかったです。この映画を観て原作

に興味をもち本書を読みました。ところが本書は8編が収録された短編集で、映画はいくつかの短編をミックスとしているものだと知りました。映画同様の長編小説を期待していた私は、ちょっとガッカリしたのですが、読み進めると映画の世界観が伝わってきて、最後はとても感動したのを覚えています。映画のストーリーの中心になった作品は、本書収録の「祝い人助八」（このタイトルでは映画はヒットしなかったかな？）です。

物語は、妻を病気で失いうらぶれた身なりで「祝い人（物乞い）」と呼ばれていた男がじつは剣の名手で、最後は藩の命で名の知れた剣客を討取るという話です。みずぼらしい身なりになっている背景や細かな設定が映画とは異なりますが、あらすじはおおよそ映画の話のままで読むにつれ映画のシーンを思い出しました。40ページ弱しかない話の中に主人公の人物像やその時の時代背景、アクション・ロマンスまで描いていて、さすが藤沢周平！と感じました。映画のタイトルになった「たそがれ清兵衛」は巻頭に収録されています。城勤めが終わり日暮れ（たそがれ時）になるとそそくさと家に帰り病弱の妻の看護と家事を行ううだつの上がらない男、井口清兵衛が主人公。この男が無形流の使い手で、妻の治療費を肩代わりに上意討ちの討手を引き受けるというものです。最後は見事に家老を討取り、妻の病気は快方に向かうめでたしめでたしのエンディングです。討手を命じられた時に、妻の看護や食事作りを理由に断ろうとするあたりに主人公の人間味が感じられます。収録されている8編全てに共通するのは、主人公が剣豪であること、普段はそれを感じさせない質素な生活をしていること、そして最後は元の生活に戻っていくことです。江戸時代、武士がサラリーマン化し日々の生活を切り盛りする中で起こる非日常の出来事、それに命に向かい合う主人公の姿は、単なるファンタジーではなく現代の私たちに通じるものです。読み終えた後は何ともいえない余韻が残ること請け合い！一読し映画もぜひご覧ください。

3年6組図書委員おすすめの本

## 「一生お金に困らない生き方」

心屋仁之助著

お金に関する本というのは、なんか気が引けるというか、汚いイメージがありますが、この本はそのイメージをまったく違う方向からとらえているので、とても新鮮でおすすめです。

